

2020年度 病院医学教育研究助成成果報告書

報告書提出年月日	2021年3月29日
研究・研修課題名	精神科薬物療法認定薬剤師の更新あるいは、新規認定取得に係る講習会への参加
研究・研修組織名(所属)	島根大学医学部附属病院・薬剤部
研究・研修責任者名(所属)	曾田重人(薬剤部)
研究・研修実施者名(所属)	曾田重人、神田翔磨(薬剤部)

成果区分	<input type="checkbox"/> 学会発表 <input type="checkbox"/> 論文掲載 <input type="checkbox"/> 資格取得 <input type="checkbox"/> 認定更新 <input type="checkbox"/> 試験合格 <input checked="" type="checkbox"/> 単位取得 <input type="checkbox"/> その他の成果()
該当者名(所属)	曾田重人、神田翔磨(薬剤部)
学会名(会期・場所)、認定名等	講習会：令和元年度精神科薬物療法認定薬剤師講習会(Web) 認定名：精神科薬物療法認定薬剤師(曾田重人)
演題名・認証交付元等	日本病院薬剤師会
取得日・認定期間等	認定日：2019年10月1日 認定期間：2019年10月1日～2024年9月30日
診療報酬加算の有無	<input type="checkbox"/> 加算有() <input checked="" type="checkbox"/> 加算無

目的及び方法、成果の内容

① 目的

精神科領域の薬物療法では、多剤併用や患者のアドヒアランス不良、薬剤の効果や副作用の発現における個人差など、様々な問題を生じやすい。特に多剤併用は有害事象のリスクであることから、令和2年度の診療報酬改定では薬剤総合評価調整加算の見直しがなされ、「処方済の総合評価や調整の取組」と、「減薬に至った場合」の段階的な報酬体系となった。当院精神科においても薬剤総合評価調整加算を算定しており、薬剤師による薬剤の副作用モニタリングや服薬アドヒアランス確認、処方の最適化を行っている。薬剤師における精神科領域の資格として日本病院薬剤師会 精神科薬物療法認定薬剤師があるが、当院の有資格者は1名のみである。

そこで、必須講習会に参加し、精神科薬物療法認定薬剤師の更新や新規取得を目指すと共に、当院における精神科薬物療法の安全性や有効性の向上に貢献することを目的とする。

② 方法

今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により令和2年度 精神科薬物療法認定薬剤師講習会はWeb開催(令和3年2月7日)となったため、各自Web講習会を受講した。

③ 成果

本講習会を受講したことにより、精神科薬物療法認定薬剤師の更新、および新規申請に必要な単位取得をすることができた。今後、精神科領域において、より有効で安全な薬物治療の実施に貢献するのみならず、薬剤部内での向精神薬使用に関する情報提供や後進の育成を図っていく。

また、講習では、「うつ病の病態、そして治療について」、「不安症の診断と治療ガイドライン」、「精神作用物質乱用・依存の現状と薬剤師への期待」、「向精神薬と妊娠・授乳」の4つのテーマに関して最新の知見を得ることができた。特に「向精神薬と妊娠・授乳」の講義では主に抗精神病薬、抗うつ薬、バルプロ酸ナトリウム、炭酸リチウムに関して妊婦・授乳婦に対して使用する場合の評価方法や留意点を学ぶことができた。本内容は、婦人科病棟の担当薬剤師を含めた薬剤部内での情報共有を行った。

今後、令和2年度診療報酬改定で見直された薬剤総合評価調整加算、新設された精神科退院時共同指導料などのさらなる算定増加に向け、薬剤師業務を行っていく。